

家畜損害防止関連情報

◆母牛への予防注射は全頭を継続的に

秋も深まると寒い日が多くなり、子牛の下痢の発生が多くなります。子牛の下痢のなかでも白痢は便の色が白色や黄色のものを指し、生後1カ月以内の子牛がこの下痢になるのが特徴です。原因は細菌、ウィルスなどの病原微生物や母乳成分の変化、寒さにより腹が冷えるなどさまざまあり、それだけに完全な予防が困難です。

牛房に十分な敷料を入れ保温や母牛の乳房を清潔に保ち、牛舎消毒をして予防に努めましょう。生後1週間以内に白痢になるようになってきたら大腸菌というバイ菌による疑いがあります。発病してから早く治療することも大切ですが、この場合は、お産の前に母牛に予防注射を実施すべきと考えます。予防注射はその牛舎の全ての母牛に継続的に行うべきであり、最初は下痢の発生が変わらないようにみえることがありますが、根気よく予防注射をすることがよい結果になるようです。

